

希望が丘文化公園将来ビジョンの策定について

1 趣旨

希望が丘文化公園は年間 80 万人以上の方が来園し、そのうち、青年の城や野外活動センター、テニスコートや陸上競技場などの施設の利用者も 20 万人を超えている中、次のような背景からその果たす役割を検討する必要がある。

○開園後 40 年以上経過していることを踏まえ、利用者のニーズに応え、公園の特性を活かしたより満足度の高い公園づくりが求められている。

○昭和 47 年の開園時には「県民に憩いの場を提供し、広く県民文化、体育の向上を図る」場として設置されたが、少子高齢化の急速な進展など社会情勢は大きく変化してきている。

○今後、東京オリンピック・パラリンピックをはじめとした大規模なスポーツイベントが開催されるなどスポーツ・健康づくりの機運が高まっている。

○2024 年に本県で開催予定の国体に関しても、主会場選定委員会から「本来のコンセプトや地の利を活かし、将来のスポーツ推進に向けて施設のあり方や活用方法の検討」が期待されている。

2 将来ビジョンの策定にあたっての進め方

希望が丘文化公園の果たす役割を明確にするため、将来ビジョンを策定することとし、次のように策定作業を進める。

○庁内に関係課長会議および関係課ワーキンググループを設置し、現状と課題を踏まえて、意見交換・調整を図りつつ検討を進める。

○有識者等による将来ビジョン検討懇話会を設置し、専門的な意見を求める。

3 今後の予定

(平成 26 年 11 月 13 日	第 1 回希望が丘文化公園関係課長会議)
11 月下旬	第 1 回希望が丘文化公園関係課ワーキンググループ
平成 27 年 1 月下旬	第 1 回希望が丘将来ビジョン検討懇話会
2 月～7 月	関係課長会議、関係課ワーキンググループ、検討懇話会を随時開催
4 月～7 月	希望が丘文化公園利用者懇話会、希望が丘文化公園運営推進協議会での意見聴取
8 月	希望が丘文化公園将来ビジョンの策定
平成 28 年 夏頃	希望が丘文化公園基本計画の策定